

B-1-30 一般病棟における人工呼吸器管理からのウェーニング

医療法人かりゆし会 ハートライフ病院看護部

○喜瀬一也 内間幸人 石川由希 松本靖子 徳比嘉恵

呼吸器内科 普天間光彦

【はじめに】

当院において集中治療室で人工呼吸器からウェーニングできず病棟へ移動となつた場合、病棟での人工呼吸器管理は長期化することが多かつた。そこで、病棟でのウェーニングを安全かつ積極的に行うためにウェーニングプランのシートを作成しスタッフへその方法やプランの進め方を教育しウェーニングを実施したので報告する。

【対象】

平成13年4月～16年3月までの間、集中治療室より病棟へ転床となつた人工呼吸器装着患者 33例中の主治医よりウェーニングの指示がでた 20人を対象とした。

【方法】

ウェーニングプランシートを活用し、呼吸療法認定士を中心に病棟看護師全員でウェーニングプランに添つたケアをおこなつた。ウェーニングは主にON-OFF法を用いた。

【結果】

ウェーニングを行つた 20人中 9人人工呼吸器より離脱できた。
プランシートを使用して判断ミスによる呼吸状態の悪化や事故は起きていない

【考察】

- ① ウェーニングプランシートを作成したことで統一した方法でウェーニングを進めることができた。
- ② 個々の患者別にウェーニングの一時中止の指標を決めたことがトラブル回避につながつた。
- ③ ウェーニングの方法やプランの進め方について看護スタッフの不安が軽減でき安全かつ積極的に行えるようになつた。

【まとめ】

プランシートに添つた統一した方法によるウェーニングを行うことで一般病棟でも安全かつ積極的にウェーニングを進めることができた。